

Season 3 蔵の会講演会&座談会

「甲斐本家蔵座敷・新時代に向けて」

と き 平成28年10月15日（土）14:00～

ところ 甲斐家蔵座敷（無料）

1 開会

2 主催者挨拶

3 来賓挨拶

4 講演会&座談会

【第一部】講演会

- 須磨 章氏「蔵のまちを見続けて」（蔵の会顧問）
- 甲斐岳夫氏「蔵座敷を守り続けて」（甲斐家七代目当主）

【第二部】座談会 テーマ；「蔵が街を輝かす」

- ・コーディネーター佐藤彌右衛門
- ・発言者 須磨佳津江さん NHKラジオ深夜便アンカー
星陽子さん イーゼル会
佐藤陽子さん 商工会議所婦人部
上野利八さん 蔵の会会長

5 閉会

蔵の会講演会 & 座談会「甲斐本家蔵座敷・新時代に向けて」報告書

と き 平成28年10月15日(土) 14:00～17:20

ところ 甲斐本家蔵座敷

司会進行 事務局長 五十嵐哲矢

- | | | |
|--------------|-----------------|-------|
| 1 開 会 | 蔵の会副会長 矢部善兵衛 | 14:00 |
| 2 主催者挨拶 | 蔵の会会長 上野利八 | |
| 3 来賓挨拶 | 喜多方市長 山口信也 | |
| | 喜多方市議会副議長 渡部勇一 | |
| | 県喜多方建設事務所長 木村勝美 | |
| | 県会津振興局次長 戸田光昭 | |
| 4 第一部講演会(要旨) | | 14:30 |

甲斐家蔵群の保存と再生を担ってきた蔵の会の努力により、甲斐家蔵群を始めとする歴史的な建造物は、喜多方市に移管され、蔵のまち喜多方のシンボルとなります。今までの経緯と甲斐家の新世紀に向けた期待を蔵の会顧問、須磨章氏、そして、甲斐家当主甲斐岳夫氏に蔵を守り続けてこられた思いを話していただきます。

●須磨 章氏「蔵のまちを見続けて」【要旨】 14:30～15:10

喜多方との付き合いは、43年目になる。最初の出会いは、蔵の写真展が目に入ったのだが、都合がつかずに行けなかった。改めて、電話をして喜多方の金田さんに会いに行った。そこで、冠木さん、上野利八さんたちと出会った。丁度、その時に、酒造業「年男」(としおとこ)の蔵を壊していたのだが、その蔵を譲り受けて、自宅の敷地に曳家した先代の彌右衛門さん、背筋のピンとした甲斐コウさん、島新のおじいちゃんたちとも親しくなることが出来た。そのことが、きっかけとなり、NHKの夜のゴールデンアワー、7時30分から放映されていた「新日本紀行」の番組で喜多方を紹介した。私のデビュー作で、喜多方に育ててもらったと思っている。

蔵の印象を語れと言われたら、最初に上げるのが、甲斐本家蔵座敷と甲斐コウさんである。蔵の中を案内していただき、三日三晩祝宴を挙げたことなど、色々な話しを伺った。このとき、将来、これらの蔵を市で利用してもらえればと話されたことを、今でも覚えている。

40数年が経って、それが現実となった。

今また、羽ばたくときが訪れたのだが、今日がその日なのだ。記念すべき日として記憶に留めたい。

これからの課題は、どう利用していくのかという議論を重ねることだ。蔵座敷のことを、市民はまだ、よくわからないと思う。知らない、すれ違いによって、

蔵の良さ、深さを体験していないのではなかろうか？

例えば、小学生には、蔵の授業で必ず来るようにする。大人の方達には、お茶、お花、詩吟などの発表の場として、結婚式場の貸し出しでも良い。文化的な活動の場としての利用は、喜多方市以外にも波及する効果を生み出すことと思う。これからの飛躍を期待したい。

●甲斐岳夫氏「蔵座敷を守り続けて」【要旨】 15:10～15:40

三百年ほど前に、信州から与一という者が、今の喜多方市松山町吉志田に移り住んだ。百五十年ほど前に現在の小荒井を居とした。四代目の吉五郎の時代にこれらの蔵を建築した。全国から、最良の建築材料を取り寄せたと聞いている。六代目の父は、味噌、醤油の小売、貸家などで、苦労しながら私を大学に出してくれた。大変に苦労したこともあり、昭和49年に若くして亡くなった。その頃、私は、まだ、蔵のまち喜多方という意識はなかった。新日本紀行の番組は東京で、たまたま、見る事が出来た。その番組の中で、祖母の Kou が、話していたことを聞いて、何となく将来の姿を思い浮かべたことを覚えている。

蔵座敷の公開は、当初、観光協会の手によって行われたが、その後、法人組織の有限会社を組織して、公開を続けてきた。

当時の白井市長に、蔵の保存、継承について自分の考えを述べたり、蔵の会上野会長に相談したりしたが、東日本大震災の発生後、平成23年11月末に店を閉めることにした。周囲の皆さんから、「ご苦労様でした。」と言われたが、自分としては、これら蔵を朽ちさせてはならないと強く思った。

平成24年に蔵の会の彌右衛門さんと五十嵐さんが来て、蔵の会で展示会をするから開けてくれと言われた時は、ありがたいことだと思った。

蔵の会からの要望、商工会議所の支援、建築士会、ふるさと振興外の協力を得ながら、市は、市民の協力を得る努力をしていただいたことで、現在のような形で収まることとなった。自分だけが知らないのかもしれないが、周囲の様々な方々のおかげで、七代目の私が甲斐家蔵座敷の終止符を打つことが出来ると思っている。心から感謝を申し上げたい。

5座談会テーマ「蔵が街を輝かす」【要旨】 16:00～17:15

- ・コーディネーター 佐藤彌右衛門
- ・発言者 須磨佳津江さん NHKラジオ深夜便アンカー
- 星陽子さん イーゼル会
- 佐藤陽子さん 商工会議所婦人部
- 上野利八さん 蔵の会会長
- 樟山敬一さん 市産業部長

須磨) 出会いとは運命とも思う。喜多方の蔵は、造るだけではなく、何を飾るか

も考えられている。勉強をしていないと分からないことも多い。喜多方には、教養人と言える人達が多かったと言えるが、ラーメンのまちだけでなく、蔵住まいのまちであること、これは行ってみないとわからないことだ。歯がゆい面もあるのは確かだ。川越、倉敷とも共通点はある。探してみると素晴らしい魅力を発見できる。物としての倉ではなく血が通っていることを伝えて欲しい。語り部となれる人達を増やして欲しい。人は、感動すれば語り部になることが出来る。甲斐家蔵座敷が市施設となったら、色々な社交場にしてほしい。人々が行き来してこそ、建物は生きるものだ。蔵活用の拠点として人が集まる場として輝いて欲しい。

星) 蔵の会の支援によって、星醫院の建物は、ギャラリー星醫院として蘇った。芸術活動を支援する活動の場として、これまで、若手の芸術家に利用してもらっている。これからも、続けて行きたいと考えている。

佐藤) 観光物産協会主催による企画「とっておきの蔵巡り」で蔵の案内役をさせて頂き機会があった。皆さんに説明すれば、熱心に聞いてもらえる。このような活動も、蔵のまちではとても必要なことだと改めて感じた。

上野) 蔵住まいの生活を毎日楽しんでいる。(上野会長からは、蔵の会として甲斐家蔵座敷の支援活動の経過と考え方について話していただきました。)

樟山) (市としての今後の対応と保存、利用計画の進め方の検討状況について説明がありました。これらは、検討が進むことで、今後、明らかになることと思います。)